

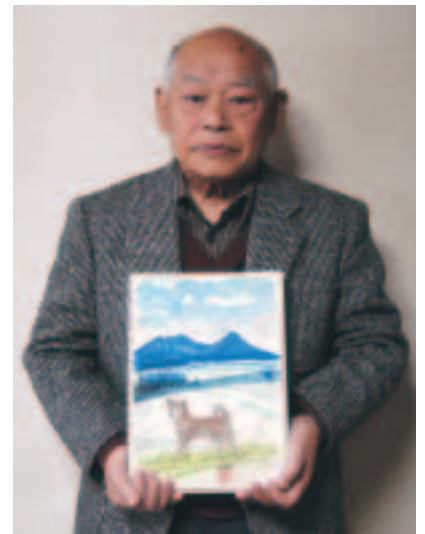


広報新年号の表紙に干支の絵を描き続けて11年 「本気で仕事をし、本物の絵を仕上げたい」

小原 祐治さん(旭町)

六郷地区・旭町の小原祐治さんは平成8年からこれまで、町が発行する広報1月号の表紙に、毎年干支の絵を描き続けています。`ねずみ年、から描き始めてことしの`いぬ年、まで11年。来年はいよいよ念願の十二支を描き終えることとなります。

そんな小原さんに、一問一答方式で紙上インタビューに答えていただきました。(回答は原文のまま掲載)



- 小原 祐治(画歴)
昭和35・36・39年 第一美術協会展 象潟風景 他 (上野美術館)
- 36年 第16回国体自転車競技ポスター 原画制作
 - 51年 第61回二科展洋画 「竹うち祭り」入選(上野美術館)
 - 52年 第62回二科展洋画 「寒」入選(上野美術館)
 - 52年 第1回蒼樹会全国選抜100人展 「一瞬」(大阪ギャラリーかねた)
 - 54年 国際展フランス美術展入選 「春を待つ」(オンフルール市)
 - 58年 第1回美術情報全国選抜絵画展 「暮色」(京橋ギャラリーくぼた)
 - 59年 1984 連展「路地」 (埼玉県立近代美術館)
 - 平成6年 特別洋画展「驪」(六郷学友会) 同 個展「秋装」他24点 (角館平福記念美術館)
 - 16年 NHK「おーいニッポン私の好きな秋田県」 竿燈絵(六郷町)担当
- ※昭和58年 美術年鑑登録
昭和59年 美術名鑑登録
平成13年 美術家年鑑登録

真っ赤に色づいたトマトのまぶさに旬の人の

みさとまんと
vol. 6

○絵を始めたきっかけは？

小学校入学の祝いに母からもらった「石版と白墨」で絵らしいものをかきながら、海軍兵時代に福島県出身の画家・大塚清六氏(石原慎太郎作家のさし絵画家)と同班で、暇をみつければ二人でスケッチをして心をやらわげ楽しませていた。教員となり絵心を通して子ども達と接したく基本から学ぶ。

○現在どんな活動をしていますか？

一声かけるボランティア、指一本のボランティア、一歩踏み出す勇氣をもつて
・月4回 ほのほのサロンで絵をかいています(ボランティア)
・月2回 クルミの会に参加しておてつだいしています(ボランティア)
・月1回 社会福祉協議会から絵画教室を依頼されています

○干支の絵を描くって思ったきっかけは？

旧六郷町の広報担当だった田中まさ子さんから声をかけられかいたのが一枚のネズミの絵でした。次に藤肥典子さん、西島羽博子さん達からの依頼があり、広報のチームワークと頼む方々の謙虚さにひかれて一年に一枚の絵の表現に力を注いだつもりです。

○これまでどんな思いで干支を描き続けてきましたか？

一枚の小さい表紙絵ですが、題材と絵の記憶をあなたの心のどこかにとどめていただければうれしいです。
名古屋動物園に2日間通い、大阪の大学生グループと虎の絵を描いたのが強く心に残っています。

○ここの干支の絵を描き終えての感想

80年余も育った地で光を背にした東山の重なり、夕日の沈む西山の肌をみていると自然と私の心の山波が浮かぶんです。広報担当の深澤さんが私の意向を程良く理解してくれたのに助けられ満足のいく表紙絵ができました。



平成12年



平成11年



平成10年



平成9年



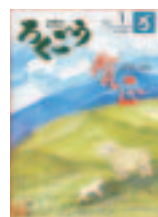
平成8年



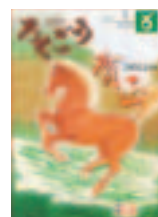
平成17年



平成16年



平成15年



平成14年



平成13年

○今後(ここの)の抱負

来年は私の年ですと書いてみて12枚目の絵を描くことの縁。小さい一枚の絵を完成させるよろこびは格別です。長い時間と集中力をうまうまからませながら本気で仕事をし、本ものの絵を仕上げたいと思います。

冬 美郷めぐりのみどころ

昨年6月から4回シリーズで行っている美郷めぐり。その最後となる美郷めぐり「冬」を2月15日に行います。

「冬」の目玉は、国の重要無形民俗文化財に指定されている小正月行事「六郷のカマクラ」。六郷地区にたなびく五色の天筆や雪宮・鳥追い小屋、同日の夜に行われる竹うち会場などを見学するとともに、酒蔵の見学も予定しています。

また、千畑地区の本堂城跡に飛来している白鳥の見学も予定しています。

寒い冬でも伝統行事に熱く燃える美郷の魅力を感ずることができます。

-  徒歩で散策
-  見学
-  車窓から見学
-  買い物

冬限定

本堂城跡の白鳥 所要時間 30分

鎌倉時代から約400年にわたって千畑地区を治めた戦国の武将・本堂氏の居城「本堂城跡」。

その内堀に、毎年冬になると200羽を超える白鳥が飛来し、羽を休めています。

みどころ

白鳥のえさとなるくず米やパンなどをご持参すると餌づけをすることができます。



冬限定

六郷のカマクラ 所要時間 90分

国指定重要無形民俗文化財

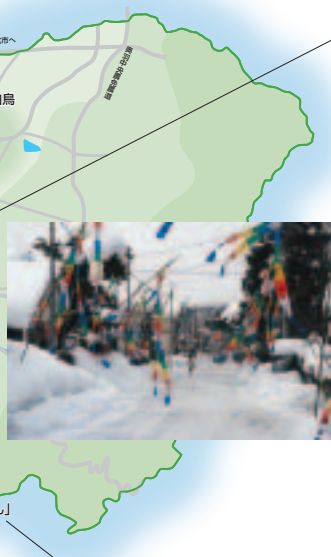
小正月に行われる一連の行事(蔵開き、天筆書き初め、鳥追い、竹うち)で、「年ごい」「悪魔祓い」「年占い」が一体となった火祭りとして親しまれている六郷のカマクラは、毎年2月11日から15日まで行われます。

中でも、2月15日の夜に行われる竹うちは、六郷地区を南北に分けて長さ5～6mの青竹を打ち合う勇壮なお祭りで、北軍が勝てば豊作、南軍が勝てば米の値が上がり、と伝えられています。

みどころ

五色の天筆に彩られた六郷の街中を歩きながら、雪宮や鳥追い小屋、竹うち会場などを見学することができます。伝統行事の雰囲気を感じることができます。

また、普段はなかなか入ることができない酒蔵も見学することができます。



春夏秋冬 共通

道の駅「雁の里せんなん」 所要時間 30分

冬限定

後三年スキー場

夏はグラススキーで緑の芝生を滑り、冬は白銀の雪原を滑るスキーゲレンデとなる後三年スキー場(グラススキー場)。クロスカントリーコースも隣接されています。



美郷めぐり「冬」 参加者を募集します

- 日時 ● 2月15日(水) 正午～午後3時
- 募集人数 ● 105人(先着順で定員になり次第締め切り)
- 申込受付 ● 1月11日(水)～2月2日(火)
- 申込方法 ● 電話で次のことをご知らせください。
 - ①参加者の氏名 ②住所 ③電話番号
 - ④バスへの乗車を希望する庁舎

その他 ●

- ・バスに乗車する庁舎により出発時間が異なります。詳細については後日、参加者にお知らせします。
- ・正午からの開始となりますので、昼食は各自で済ませてからご参加ください。
- ・バスから降りて徒歩での散策時間が長くなります。防寒対策は各自でお願いします。

申し込み問い合わせ 役場(六郷庁舎)町長公室 秘書広報班 ☎84-4900(内線1225、1226)